



第2回 旭川駅周辺かわまちづくり検討会

説明資料

令和5年8月31日

旭川市

(1) 前回検討会等の振り返り

検討会等の実施概要

第1回検討会（詳細3ページ）

【開催日及び開催場所】 令和5年6月8日（木） 18:30～20:00
旭川合同庁舎 東館1階 入札執行室

【議事】 昨年度懇談会・かわまちづくり計画・利活用方策の検討・事例紹介・今後の進め方について

現地見学会（詳細4ページ）

【開催日及び開催場所】 令和5年7月5日（水） 9:30～11:30

【視察箇所】 JR旭川駅南口及び鏡池、神楽岡公園、忠別川河川緑地公園（ツインハーブ橋上流）

環境教育・アクティビティWG（詳細8～15ページ）

【開催日及び開催場所】 令和5年7月25日（火） 18:30～20:00

令和5年7月26日（水） 18:30～20:00

旭川市役所第3庁舎 2階 会議室

【議事】 WGの位置づけ・かわまちイベント等の実施報告・忠別川及び牛朱別川の利活用について



第1回検討会の概要

【開催日及び開催場所】 令和5年6月8日（木）18:30～20:00

旭川合同庁舎 東館1階 入札執行室

【議事】 昨年度懇談会・かわまちづくり計画・利活用方策の検討・事例紹介・今後の進め方について

出席委員名簿（敬称略、五十音順）

氏名	所属等
荒屋 清美	旭川サイクリング協会
億貞 拓磨	フィールドオブドリームス
佐久間 拓也（会長）	旭川商工会議所
佐藤 勉	ミズベリング旭川
鈴川 雄太	（一社）旭川観光コンベンション協会
寺島 一男	大雪と石狩の自然を守る会
中保 翔太	（一社）旭川青年会議所
坂東 裕美	旭川中学校長会
吉田 昌史	（一社）大雪カムイミンタラDMO
事務局	旭川市 地域振興部
	旭川開発建設部 治水課

検討会での主な意見

議題	主な意見
事例紹介	<ul style="list-style-type: none"> サケの遡上、夜の水面に映る駅の風景等、みんな知らない小さなところも伝えていけたらいいと感じる。 駅裏の川のところはすごく良い場所なので、隠れて悪さをする人たちが出づらい環境づくりをできないのか。 川に関するイベントのチラシを学校であまり見たことがないので、PRのし甲斐があると思う。 パンフレット配布を学校に任せるととても反応があるので、有効に使えればと思う。 YouTubeにしても何にしても特定の人しか見ないので、これを機会にいろいろなネットワークが横で繋がりを、そこからどんどん発信されていくような形になればよいと思う。
今後の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> 現地を見て新たな発想が出てくるかもしれない。 机上で話をすることも必要だが、現地を見ながらどういう絵面や景色になるか、頭に浮かべてワクワクしながら議論していくことがとても大事だと思う。 牛朱別川はサケがたくさん遡上している川で産卵床もたくさんあるので、ラフティングのルールづくりが重要になってくると思う。 景観に対するルールも必要で、どこかでそれらを検討するような場面があってもいいのではないかと。 自転車のイベントを継続的に実施するための体制づくりが課題となっており、人材育成も検討会の中で検討していきたい。



現地視察会の概要

【開催日及び開催場所】 令和5年7月5日（水）9:30～11:30

【視察箇所】 JR旭川駅南口及び鏡池、神楽岡公園、忠別川河川緑地公園（ツインハーブ橋上流）

参加委員名簿（敬称略、五十音順）

氏名	所属等
荒屋 清美	旭川サイクリング協会
佐久間 拓也（会長）	旭川商工会議所
鈴川 雄太	（一社）旭川観光コンベンション協会
寺島 一男	大雪と石狩の自然を守る会
中保 翔太	（一社）旭川青年会議所
事務局	旭川市 地域振興部
	旭川開発建設部 治水課

現地視察会での主な意見

議題	主な意見
旭川駅南口及び鏡池	<ul style="list-style-type: none"> 川の流れを変えると上下流の産卵床に影響が出るので設計で具体的にになったら教えてほしい。 サイクリングロードとして考えている区間は規制がないが、歩行者への配慮は必須である。 「旭川駅周辺かわまち」という名前なのだから、JRに取組内容を理解・協力してもらい、着替えスペース等を駅構内で確保できないか。 ウエットスーツを着て自転車に乗らないのなら、ラフティングに乗る場所にも着替え場所は必要だと思う。
神楽岡公園	<ul style="list-style-type: none"> 数年前は礫河原だったが、流心が左岸寄りになって川の流れも変わって危険になったので、留意して親水広場の位置を検討する必要があると思う。
ツインハーブ橋上流	<ul style="list-style-type: none"> 上流からの自転車走行時にカーブが急で、木も多く見通しが悪いので、緩やかな線形に切り替えることも考えてほしい。 日差しが強い時の日陰にもなるので、ハルニシ等の樹木を全部切るのではなく、ボートの運搬に支障がない範囲で在来種等の大きな樹木を残すことも考えてほしい。 忠別川下流にあるパークゴルフ場より上流は舗装路面状況が特に悪いので、可能であれば補修してほしい。 予算次第だとは思いますが、センターラインの設置対応が可能ならお願いしたい。



(2) 今年度検討会で実施する事項の確認

今年度、検討会で成果とする事項

当該かわまちづくり計画の事業実施期間は令和6年度から10年度までの5年間。
(その後、令和15年度まで国によるモニタリングが実施される)
事業実施期間が長期に及ぶことから、ソフト・ハード施策の実施内容を以下の3つに区分する。

Phase 1: 次年度実施できること

(令和5年度時点で実施している、または計画できるもの)

Phase 2: 事業実施期間中にできること

(令和6年度から令和10年度までに実施、または計画できるもの)

Phase 3: 事業終了(ハード施設整備)後にできること

(令和11年度以降に実施、または計画できるもの)



その上で以下について今年度の成果とする。



- 各検討項目ごとに**ロードマップ(推進工程表)**を作成。
- **サイクリングマップ**を作成。(現時点版)
- **かわ・まちルールブック(仮称)**を作成する。(現時点版)
⇒ 現時点ですべてを確定するのではなく、今後、事業実施期間を通して修正を行い、継続的な活動に繋げ、令和10年度に完成させる。
- 次年度以降の**事業推進体制の確立**。

ロードマップ(推進工程表)のイメージ

①サイクリングの利活用方策の推進工程

整備項目	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	備考
	Phase 1	Phase 2				Phase 3						
【ソフト】												
マップの作成												
紙面												
Web、アプリ等の利用												
トイレ等必須項目 Googleマップへの反映	検討会											かわまちのWebサイト開設後
音声ガイダンス												
サイクルステーション												
設置の検討(場所・機能等)												
協力店依頼												
運営												
フォトスポット												
検討会での任意設定	検討会											
ユーザー投稿												かわまちのWebサイト開設後
フォトアプリ等の活用												
【ハード】												
案内標識												
路面標示												

凡例

実施主体
 実施時期

 準備・維持管理期間

(3) 各WGを踏まえた、ソフト施策の検討及び対応方法

①サイクリングコースの設定について

WGでの意見等	課題・対応等
<p>●サイクリングコースの設定について 「旭川駅～永隆橋通～牛朱別川～道道愛別当麻旭川線（動物園通）～動物園のコース」のほか「旭川駅～（亀吉経由）～石狩川～常磐公園～牛朱別川」や「忠別川～市道下4号線～牛朱別川」、「旭川駅～忠別川～旭川空港（アクティビティセンター）」といったコースがあるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の趣旨から、ライトユーザーをターゲットとしたい。 ・サイクリングコースは1ルートだけではなく複数ルート設定する。 ・「かわまち」としての推奨ルート（路面標示等を整備するルート）は「旭川駅～永隆橋通～牛朱別川～道道愛別当麻旭川線（動物園通）～動物園のコース」とし、他のルート（市内を周遊するコース、旭川駅と旭川空港を結ぶコース）はマップ上の表示のみとしたい。
<p>●サイクルステーションについて コース近くへの「サイクルステーション（のぼり旗が目印）」の設置（しまなみ街道の「サイクルオアシス」のようなイメージ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、休憩所、給水等を機能面で考えた場合、現時点では、コンビニ、都市公園、サイクルショップ等で代用可能である。 ・今後、協力店をどのように確保するか？設置した場合、維持管理の方法をどうするか？
<p>●ハード整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美瑛かわまちのようなインパクトのある路面標示がよい。 ・動物園通りに、矢羽根のピクトグラムがあるとよい。 ・サイクリングコース上の樹木の剪定について 	<ul style="list-style-type: none"> ・「石狩川上流サイン設置指針」との整合性について関係機関と協議する。 ・環状線までは施工済。環状線から動物園までは令和6年度以降に順次施工を予定している。 ・樹木の剪定については、基準も含めて河川管理者と協議する。（河畔林の取扱いについても協議する。）
<p>●サイクルマップの記載内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップに落とし込む内容の精査（トイレ、給水、修理、フォトスポット、歴史文化、コース独自の魅力） ・「楽しさ」と「学び」を取り入れたい。 ・コースの情報発信方法（QRコード、アプリ、音声ガイド等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、休憩所、給水等の必須内容をグーグルマップと連動する方法で試行。 ・将来的にどのようなものを作成するか？ ・フォトスポットをどう選ぶか？ ・Webページ、アプリも含めて、目指す情報発信方法、作成方法及び時期をどうするか？

【参考】サイクリングマップの事例（山梨県）

市川三郷町

サイクリングマップ

～七福神に招かれて～
満願成就！
福の神を巡るコース

ルート延長 **18km**

満願成就！福の神を巡るコース 累積高低差

距離▶全行程 約18km 時間▶約1時間～約1時間30分 累積高低差▶約210m

神明の花火

サイクルマップ

立ち寄り所

このQRコードからサイクリングコース沿線の立ち寄り所の情報を見ることができます。

観光情報

このQRコードから市川三郷町HPの観光情報を見ることができます。

凡例

- 飲食店
- パン屋、菓子屋
- その他
- 観光関係
- コンビニエンスストア
- 道の駅

コースを案内する「青い線」が設置されています

②アクティビティの利活用に関する意見等

WGでの意見等	課題・対応等
●鏡池の活用（水質・水量の改善）	<ul style="list-style-type: none"> 鏡池の水質や水量については、別途河川管理者と協議する。 鏡池の利用については、公園管理者と協議する。
●忠別川の自然環境との共生 サケとの共存のため、ルールとして4月～8月までとして環境に配慮してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 忠別川を利用する時期については、ルールに含める。
●アクティビティセンターについて アクティビティセンターは独立した建物だと良い。（DMOではWeb版アクティビティセンターを準備中）	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティセンターについては、当該各事業を進めていく中で、センターとして必要な機能について継続的に検討していく。
●鏡池や親水広場を活用した環境や水難事故防止のための教育イベントを行いたい。	<ul style="list-style-type: none"> 鏡池で実施するのであれば、水質の改善が必要。神楽岡公園にワンド状の親水広場を計画しているので、そこでの実施も検討していく。
●周辺ホテルとの連携 ・WBFの風呂とのコラボ、ホテルとの連携 ・ホテルでアクティビティの予約ができる。	<ul style="list-style-type: none"> かわまち計画でDMOや観光コンベンション協会が行っている事業に対してどのように連携していくか継続的に検討していく。
●釣りの可能性	<ul style="list-style-type: none"> 北海道漁業調整規則第38条の規制事項あり。（やまべ・あゆ）実施は可能。
●eマウンテンバイクの試走 （駅～神楽岡公園～上川神社～駅）	<ul style="list-style-type: none"> 忠別川流域で実施できるアクティビティであり、親水広場ができればコース形態に幅がでけると思われる。
●ファットバイク、スノーシュー、歩くスキーのレンタルしている。かまくらはどうか。歩くスキーは東南アジア系に人気がある。	<ul style="list-style-type: none"> フォトスポット等、利用者に活用してもらえるところを検討していく。
●堤防の緩斜面を利用した雪板の実施したい。	<ul style="list-style-type: none"> 実施可能。外では雪板の作成から行っているところもある。
●簡易サウナ	<ul style="list-style-type: none"> 綺麗な水辺があることが望ましく、インフラが構築できるか。

③環境教育の推進に関する意見等

WGでの意見等	課題・対応等
<p>●子ども現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども」にとって「川」は身近でない。距離を縮める必要がある。 ・子どもは、水辺で生きものを探るのが大好き。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにして「川」に行く機会、知る機会を作れるか。 ・親水広場等、当該計画を通じて、利用ルールの周知と併せて安全に利用できる空間を造成していく。
<p>●学校の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に「川」を取り入れるにはハードルが高い。（移動手段や時間の確保、費用面、人材、ニーズ、安全面） ・人材については、「あさひかわ子どもの学び人材リスト」がある。 ・社会教育という視点では、イベントの活用すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の総合的な学習の実態を把握する。その上で簡単なアンケートを行う等問題点を抽出する。 ・「かわ」に関する人材がいないことから、含めることができるか検討。開発局には「かわ」に関する出前講座のメニューがある。
<p>●教育イベントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかキャンパスの参加者や来訪者を対象とする？ ・子ども達が見えるところで、ラフティングやカヌーを実際に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが集まる（祭り等の）イベントに併せて、ラフティングやカヌーのイベントを検討する。
<p>●環境教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「プラスチックゴミ問題」を学ぶのもよい。 ・ゴミ拾いをした後にラフティングができるといったイベントはどうか。子どもにとって無料でラフティングできるのは魅力になると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存制度（「環境アドバイザー派遣制度」）の活用により、学習機会を確保する。 ・経費の問題はあるが、子どもにとって無料でラフティングできるのは魅力になることから検討する。
<p>●サケに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サケゼミナール」を開催。子どもも含め知識の育成と「サケの飼育・放流等」の体験を行っている。 ・飼育をしてくれる小学校が減っている。 ・かわまちの取組として、サケに関心のある人を増やす取組があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サケの稚魚飼育の拡大が可能か、関係団体及び関係課に聴き取りを行う。既存イベントの活用方法についても、関係団体に聴き取りを行う。
<p>●川に関する「情報の一元化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の情報は探しにくい。人材情報も。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育だけでなく、旭川の川に関する情報が「一元的」にわかるものの作成について検討する。

④ICTを活用した情報提供に関する意見等

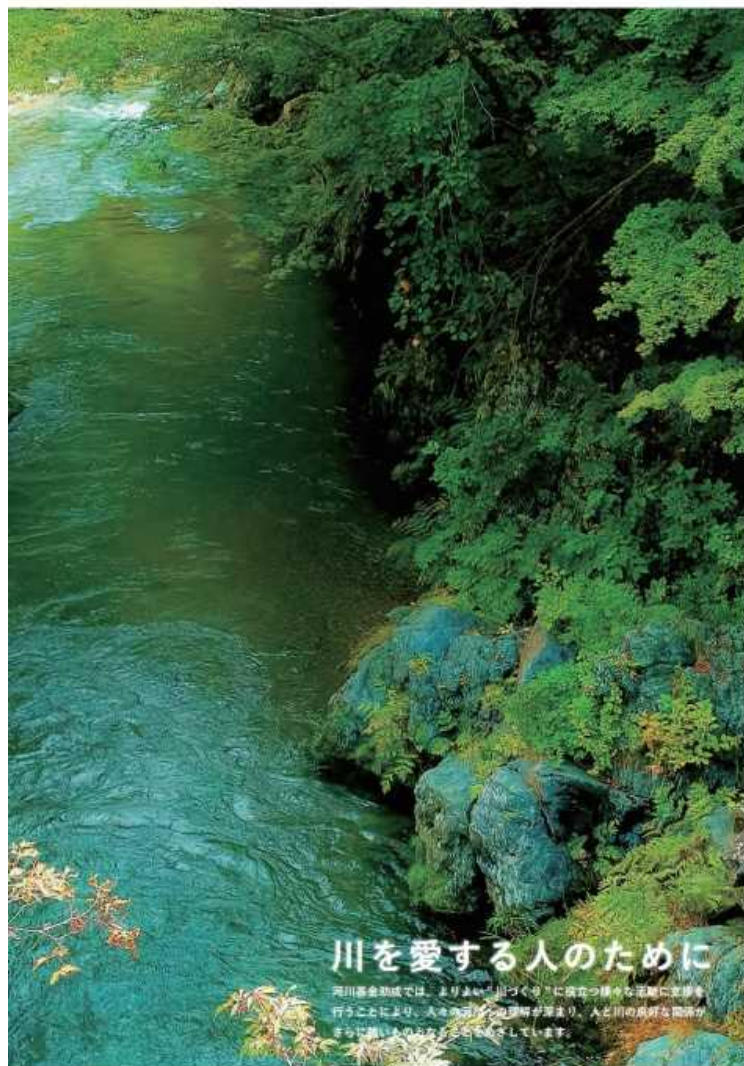
WGでの意見等	課題・対応等
●川に関するHP等「情報の一元化」（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育だけでなく、旭川の川に関する情報が「一元的」にわかるものの作成について検討する。 ・誰が、いつ作成するか？ ・かわまちづくりが発信したい情報に最も適合する情報発信媒体を検討して行く。
●サイクリングコースの案内板等ハード施設のメンテナンスが不要となる仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・現地のメンテナンスをどうするか？
●サイクリングコース上（看板等）のQRコードによる店や歴史等の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・QRコードを活用した場合、どのようにQRコードを周知するか？ ・サイクリングマップにQRコードを付記し、グーグルマップと連動する場合、誰が管理するのか？
●サイクリングコースにおける「楽しさ」の発信、動物園との連携、インセンティブの付与	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなものを「楽しさ」とするか？ ・「楽しさ」をどのように集めるか？（かわまちで選ぶ、ユーザーの投稿） ・どのように「楽しさ」を発信するか？
	<ul style="list-style-type: none"> ・コース利用者へのインセンティブは？
●サイクリング上のフォトスポットの設置（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトスポットをどう選定するか？

(4) 次年度以降の推進体制について

⑥助成金制度への応募

2023年度 河川基金助成 募集

RIVER FUND BY THE RIVER FOUNDATION



川を愛する人のために

河川基金助成では、よりよい「川づくり」に役立つ様々な活動に支援を行うことにより、人々の関心や理解が深まり、人と川の良好な関係が築かれることを目指しています。

応募締切

2022
11/15

河川基金助成
3つの部門

研究者・
研究機関

※助成額
200万円～
20万円



河川や流域に関する調査・研究を行う、研究者や研究機関への助成

川づくり
団体

※助成額
500万円～
30万円



河川や流域への理解を深めたり、健全な姿に変えるための活動などを行う市民団体等（川づくり団体）への助成

学校

※助成額
50万円～
10万円



学校教育現場で、河川・流域を通じて防災や環境等を学習する河川教育に取り組む、小・中・高校等への助成



河川基金



応募要項等河川基金の詳細はHPをご覧ください。

河川基金

検索

河川基金助成

応募締切

11/15

助成対象者	助成区分	期間	助成金額
研究者・研究機関 	一般的助成	1～2年	200万円(上限)
	緊急災害調査	1年	300万円(上限)
	学術図書出版助成	1年	100万円(上限)
	アウトリーチ活動 A	1～2年	200万円(上限)
一般研究者	一般的助成(60歳未満の研究者)	1～2年	100万円(定額)
	学術図書出版助成	1年	100万円(上限)
	アウトリーチ活動 B	1～2年	100万円(上限)
若手研究者	一般的助成(35歳以下の研究者)	1～2年	60万円(定額)
ジュニア研究者 (クラブ活動)	高等学校のクラブ活動	1年	30万円(定額)
	中学校のクラブ活動	1年	20万円(定額)
川づくり団体部門 	活動 A	1年	100万円(定額)
	流域川づくり団体 活動 B	1年	60万円(定額)
	活動 C	1年	30万円(定額)
全国川づくり団体	活動 A	1年	500万円(上限)
	活動 B	1年	100万円(上限)
新設川づくり団体	新設川づくり団体自立支援助成	3～5年	毎年50万円(定額)
学校部門 	幼稚園、保育所 認定こども園等	幼稚園、保育所、認定こども園等	1年 10万円(定額)
		河川教育と取り組み支援	1年 10万円(定額)
	小学校、中学校 高等学校	単学年	1年 20万円(定額)
	特別支援学校等	複数年 学年数 2～3	1年 40万円(定額)
		複数年 学年数 4～6	1年 50万円(定額)

※中学校・高等学校におけるクラブ活動は、「研究者・研究機関部門」のジュニア研究者(クラブ活動)へ応募いただけます。
※「助成金額(上限)」と表記された助成区分については、財団において申請金額を査定したうえで、助成額を決定いたします。

問い合わせ先

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 住友生命日本橋小伝馬町ビル2階 公益財団法人 河川財団
基金事業部 tel.03-5847-8303 e-mail. kikin-toi@kasen.or.jp http://www.kasen.or.jp

⑦公益財団法人 河川財団への照会

【助成の要件】

【川づくり団体としての適合】

- ・公益法人等 ・特定非営利活動法人 ・河川協力団体
- ・任意団体（行政を含む任意団体等）⇔ この要件であれば、現在かわまちづくり検討会でも可
- ・その他（民間企業等）

【助成の対象テーマ】（以下からもっとも関連の深いテーマを選択）

- ① 河川や流域への理解を深める活動
 - ② 河川教育を支援する活動
 - ③ 人材育成、指導者育成に焦点を当てた活動
 - ④ 川づくり団体が行う社会教育的活動
 - ⑤ 河川環境の保全活動
 - ⑥ 防災・減災に関する活動
 - ⑦ 川を活かした地域づくりに関する活動
 - ⑧ 流域間・流域内交流でのネットワークを構築する活動・川づくり団体相互・川づくり団体と河川管理者、行政等・川づくり団体と学校等の連携、交流
 - ⑨ その他
- ⇒ かわまちづくり計画に基づくので⑦がもっとも関連深い。

【助成のコース】

- ① 流域かわづくり団体（1つないし複数の河川で活動する団体）
助成は単年度単位（継続可能） 100万 50万 30万のコース
 - ② 全国かわづくり団体（全国規模で活動する団体）
助成は単年度単位（継続可能） 500万 100万のコース
 - ③ 新設かわづくり団体（設立から5年以内）
助成は3～5年で選択 年間50万
- ⇒ 当該計画では、①または③が該当。

公益財団法人 河川財団への照会②

【審査基準】

- ① 目的が川に関する。
 - ② 目指す成果が明確 かわづくりに関する成果が期待される
 - ③ 計画に無理がないか 実施内容、実施時期が適切かつ効果的か
独自の視点があり、新たな取組が行われているか
- ⇒ かわまちづくりや現行の活動をブラッシュアップすれば可能。

【関係者と連携】

- ① 河川管理者と連携が取れているか
 - ② 地域の関係者と連携や協力が期待できるか
- ⇒ すでに取れている。

【団体の活動を自律的、継続的に展開するための展望について】

- ① 助成終了後の自律的な活動継続に関する展望をもっているか
 - ② 上記展望に基づき、将来的に自らの団体の活動に必要な資金の確保について、具体的に考えているか
 - ③ 将来的に自らの団体の活動を継続していくために必要な人材、後継者の育成を具体的に考えているか
 - ④ 上記展望に向けた各年の目標と活動内容及び見込まれる成果が記載されているか
- ⇒ 現在、検討中の内容に継続的な展望という視点を意識した内容が必要となる。

【照会結果】

- ⇒ 現在のような検討会の場合（任意団体）であれば、「流域かわづくり団体」として**イベントの実施への助成**が受けられる。**運営費は使用目的外。**
（ただし、実績等が求められるので採択のハードルは高い。）
助成は単年度で、継続使用可能。
- ⇒ NPO法人になると、設立から5年以内に申請すると「新設かわまちづくり団体」として最大5年間（年間50万円）の助成が受けられる。（「流域かわづくり団体より、採択のハードルは低い。）
助成金の使用用途として、運営費も認められている。
6年目から「流域かわづくり団体」として助成を受けることは可能。

(5) 今後のスケジュールについて

今年度のスケジュール

